

令和6年3月31日

令和5年度

事業報告

社会福祉法人 シルヴァーウィング

特別養護老人ホーム 新とみ

短期入所生活介護 新とみ

通所介護 新とみ

ウィング訪問ケアステーション

I. 施設関係

1. 特別養護老人ホーム

(1) はじめに

本年度は定員 40 名に対し、35.0 名の入所者数でした。月平均利用者実人員は 36.6 名と、昨年と比較し 0.1 名の増加です。長期入院、看取りなどによる退所者は 10 名、新規利用者は 11 名です。年度末現在の利用者の平均年齢は、男性 84.6 歳、女性 87.5 歳であり、男女合計の平均年齢は 85.8 歳です。なお、特養の年間平均稼働率は 87.5% です。令和 4 年度 86.03% に比べると、稼働率は 1.47% 上がっています。

表 1 前年度との比較 定員 40 名

項目	令和 3 年度	令和 4 年度	令和 5 年度
平均年齢	86.4 歳	85.4 歳	85.8 歳
平均介護度	4.22	4.15	3.98
年度末平均人数	36 人	34.4 人	37 人
延べ定員数	14,600 人	14,600 人	14,640 人
1 日平均利用者数	33.2 人	34.4 人	35 人
稼働率	82.96%	86.03%	87.5%

表 2 退所者 令和 5 年 4 月 1 日～令和 6 年 3 月 31 日

退所者	人数	理由
死亡	3 人	入院による死亡
死亡	6 人	施設での看取り
入院	0 人	療養型病院へ入院
その他	1 人	家族転居による在宅復帰

(1) 入・退所の現状

- ①入院以外は、施設での看取りを行い、看護師・介護職・嘱託医・家族との連携を密に長く過ごしていただいた居室にて、最期を迎えてもらうことができました。
本年度は 6 名の看取りでお見送りをしました。ご家族についても年々看取りへの希望が高まっている状況です。
- ②新規利用者は 10 名でした。新規利用者については、入所後、環境の変化による心身の変動が見られることが多く、様子観察に注力しました。比較的施設の環境に慣れていただけた利用者が多く、ご家族と連携をとりつつ、一人ひとりの生活の形を整えていきました。
- ③ 新規利用者の声かけにおいては、中央区で入所調整したリストに沿って声かけをするシ

システムになっているが、入所に時間がかかるケースが多くなっており、自宅での介護を希望するご家族も増えているのが現状です。

声かけにより、断られる理由として

- ・他施設との併願のため、すでに他施設への入所が決まっている
- ・現在入所している施設(有料・老健・グループホーム等)で満足している
- ・まだ在宅で、介護をしていきたい

(2) 事業実績について

利用者の平均介護度は令和4年度の4.15に対し、令和5年度は3.98とやや軽くなっています。(別表2参照) 特養での対策としては、健康管理下で一層の介護の充実を図るとともに利用者の事故や病気のための入院を極力抑えることです。そのため

- ①健康管理の徹底、衛生管理の徹底、日常生活での異常に対する早期発見・早期対応の徹底。
- ②ハード面の充実として、インフルエンザやノロウィルスの感染防止他、感染拡大の新型コロナウイルスへの防止策として、空気清浄機他、施設全体の除菌剤の配置などを強化しました。
- ③嘱託医による利用者の心身の定期的な健康管理として
 - ・定期的な健康診断、予防注射の徹底による感染症対策+
 - ・精神科医による精神面のケア、認知症状の緩和あ
 - ・歯科医、歯科衛生士の定期的な往診のもと、口腔内の衛生管理による誤嚥性肺炎予防、嚥下機能の維持

その他、言語聴覚士が機能訓練に加わり、嚥下リハ、言語リハに注力しました。多職種連携によるケアの体制は、今後も更なる充実を図っていきます。

(3) サービスの内容について

本年度は引き続き、食事、入浴、排泄、接遇といった介護の基本業務をしっかりと行うことはもとより、身体拘束廃止、虐待防止、感染症防止、防災、安全対策、環境整備等にも力を入れて取り組みました。令和5年5月より新型コロナウイルスは第5類に移行しコロナ禍も一段落した様相ですが、苑内では段階的に緩和しつつも職員、利用者のマスク着用、手洗い、消毒、検温等の感染防止対策は継続されています。

レクリエーションやリハビリテーションの充実ということでは、デイサービスと協働してのレク活動に力を入れ、利用者の日常生活にうるおいとやすらぎとかがやきが得られるよう努めました。本年度は外部ボランティアとのふれあいの機会を増やし、心身の活性化を図りました。

リハビリテーションは、機能訓練担当の理学療法士を中心に、他職種との協働により、身体、嚥下、言語等の機能面においてより充実したリハビリを実施することにしました。自立支援を目的とし、歩行訓練等の身体リハから言語リハにいたるまで、一人ひとりの個別性を尊重した、きめ細やかなリハビリに取組みました。

表3 レクリエーションにおける効果

プログラム	心身機能への効果
音楽療法	唱歌、懐メロ等は、認知症状の緩和や精神面への良質な刺激となっている
セラピードック (オンライン)	月に2回のセラピードックは、利用者に寄添うことで癒しや、リハビリの効果をもたらせている
健康吹き矢	楽しみながら、自然に呼吸法を体得できる
書道・そろばん	昔、覚えのある方は自然に筆が動き、指が動き、モチベーションが上がってくる
チェアエクササイズ	身体を動かし、自由に伸び伸びと身体を表現でき、終わった後も、爽快感が残っている
アロマセラピー	アロマの香りを楽しみながら、五感に刺激を与えることで感性が豊かになってくる
コミュニケーションロボット・パロ、アイボ・パル ロ・ペッパー	パロとの触れ合いにより、認知症の不安感、不穏を緩和してくれる。アイボは、様々な会話を引き出すきっかけになり、精神面の活性化が見られる
ベランダ菜園	認知症予防プログラムのひとつ。植物を育てることにより、心身への安定と、良質な刺激をもたらせる。



アザラシ型ロボット・パロとの
スキンシップ



イヌ型ロボット・aibo との
触れ合い

2. 短期入所生活介護

(1) はじめに

ショートステイはキャンセルや特養の空床があり、利用する立場からすれば昨年に続き比較的利用しやすい状況でした。区内の方については、最長で30日利用を基本としつつ、抽選から漏れた方についても、急なキャンセルや特養利用者の入院により空いたベッドをより多くの方に利用していただくため、FAXなどで空き情報をタイムリーに提供しています。毎月、区外の事業所へ案内を出していることなどから、区外の方の利用も多く、かなりの成果をあげています。

別表10に示してあるように、特養・ショート合計の年間稼働率は、前年度104.31%に対して令和5年度は105.4%と上昇しています。ショートステイ単独での年間稼働率は、224.73%であり、昨年度より1.43%減少していることから、特養の稼働率が1.47%上昇しているため、ショートステイのベッド稼働率を減少させたと言えます。

① 周辺環境の変化

隣接区においても特養、老健の増加等があり、競争激化となっています。

② 地域の課題

- ・ 認知症独居高齢者の健康管理 食事・入浴・服薬等
- ・ 認知症高齢者の徘徊・火の不始末等
- ・ 独居高齢者の引きこもりによる認知症の進行
- ・ 高齢者世帯における体調管理
- ・ 高齢者世帯、独居高齢者の金銭トラブル

周辺環境の情報収集・地域の課題を分析し、ニーズを抽出することが重要です。緊急ショート、医療的対応等、多様なニーズにいつでも対応できるだけの層の厚い体制づくりをし、利用者の増員を図っていきます。

表4 前年度との比較 定員6名(空床利用)

項目	令和3年度	令和4年度	令和5年度
年度末平均年齢	85.3歳	83.9歳	85.0歳
年度末平均介護度	3.39	3.58	3.40
年度末平均人数	50人	43人	40人
延べ定員数	2,190人	2,190人	2,196人
1日平均利用者数	14.6人	13.6人	13.5人
稼働率	243.01%	226.1%	224.73%

(2) サービス実施状況

送迎：施設～利用者宅の送迎（ドア ヅ ドアの実現）

エレベーターのない団地等の集合住宅では、階段昇降機(介護ロボット)を活用し、歩行困難な利用者の送迎を可能としました。

介護：身体状況に応じた食事介助・排泄介助・おむつ交換・体位交換・施設内の移動の介助。

食事：事前の面接時に確認し、身体状況に適した食事を提供しています。

入浴：週3回以上。身体状況に応じ機械浴・介助浴・一般浴にて必要な介助を行っています。

個別機能訓練：小集団訓練の他、希望される利用者には、理学療法士による個別機能訓練が受けられます。その他、レクリエーション・音楽療法・セラピードッグ(リモート)など。

健康管理：毎日のバイタル測定と日々の服薬管理等の健康管理・指導

胃ろう、ストーマ、インスリン、バルーンカテーテル、在宅酸素等の医療的対応。

(3) サービスに関する苦情・相談

苦情・要望については、速やかに受付票に記録し、誠意を持って対応し解決いたしました。

(4) 一年の状況と今後の課題

ここ数年の特徴として

① 2ヶ月前の申込みが減少

ショートステイの申込みは通常2ヶ月前を基本としているが、家族の生活スタイルの変化に伴い、1ヶ月前頃より徐々に増えている傾向です。本年度も緊急ショート申込みが多くありました。

②地域、在宅の課題への対応

在宅における生活スタイルが様々なように、ニーズにおいても多様化してきています。地域・在宅における課題が、そのままショートステイ利用につながっているケースが多く、緊急ショート利用が顕著に増えています

在宅における利用者、家族を支えるためのショートステイの役割は、今後ますます重要となるでしょう。そのためには、いつでも対応できる体制づくりと、職員への教育が不可欠です。

3. 通所介護

(1) 利用者の状況

①リハビリニーズへの対応

年齢、性別に関係なくリハビリへのニーズは高く、デイサービスへの目的のひとつでもあります。在宅生活を維持していく上で、心身機能の維持、日常生活動作の維持は重要であり、理学療法士のみならず、看護、介護、相談員が連携してニーズに

対応しています。

② 朝食サービス～夕食サービスまで対応

食事サービスにおいては、本年度も朝食サービス、持ち帰り弁当、夕食サービス等利用への対応を行い、独居、高齢者家族、就労家族等への支援に務めました。

食事サービスとともに食前・食後の服薬管理も行っていることで、在宅生活の負担軽減を図り、在宅生活の維持を支援しています。

《在宅における課題》

- ・ 独居のため、食事、服薬管理が難しい→ 体調の悪化、病気の進行
- ・ 高齢者世帯のため食事作りが困難→ 体調の維持が難しく異常等にも気づきにくい
- ・ 家族が就労中→ 食事時間をとるのが難しい、不規則になりがち

③ 医療的対応について

前年度同様、本年度も医療的対応を必要とする利用者が多くいました。胃ろう、インスリン、バルーンカテーテル、在宅酸素、喀吸引、褥瘡処置、ストマ交換、ネプライザー等。これら医療的対応に応じるため、看護師2名体制をとり、手厚いケアに務めています。今後も医療的ニーズの増大は想定され、デいの職員においても知識とケアの質の向上を図ることが課題です。また、訪問診療を利用している利用者が年々増えており、デいの看護師、相談員と、居宅ケアマネ、訪問診療医、訪問看護師との連携が必須となっています。

令和5年度の利用実人員は別表8のとおり1,122人、利用実人員は前年度1,105人と比べて、17人増加、稼働率は71.5%と昨年より3.1%上回っています。延べ利用数は、利用者一人あたりの利用回数が月平均7.93回となり、前年よりも約3.26%増加しています。利用者の平均年齢は別表7のとおり男女合計の平均では83.4歳となっています。内訳では男性81.6歳、女性85.2歳で、前年よりも低くなっています。平均介護度は3.17と、前年より高くなっています。

新規利用者においては、医療的ニーズ、在宅における介護者の介護力の低下、家族の就労継続、リハビリ、入浴希望等、様々な理由による申し込みがあります。デイサービスに係わる送迎利用率は99.8%、入浴利用率は87.1%となっています。前述したとおり、特養・ショートに関しては既に100%以上の稼働率であるので、施設の収入を伸ばすにはデイサービスの稼働率を上げることが急務です。

表5 前年度との比較 定員34名

	令和3年度	令和4年度	令和5年度
年度末平均年齢	83.5歳	83.1歳	83.4歳
年度末平均介護度	3.05	3.00	3.17
実人数	1,001人	1,105人	1,122人
延べ定員数	12,410人	12,410人	12,414人
1日平均利用者数	23.3人	23.3人	24.4人
稼働率	68.51%	68.42%	71.5%

(2) 運営状況

①行事の実施

開設当初より、利用者の方に生活の豊かさとメリハリを持っていただくために、菖蒲湯や柚子湯など季節に応じた日課活動を取り入れるとともに、特養と合同でイベントを開催しています



春のお花見

七夕祭り



盆踊り

クリスマス会



カルタ大会

ドックセラピー

表6 主な行事

4月	<ul style="list-style-type: none"> ・お花見 小人数ずつ京橋公園へお花見に行った。利用者のイキイキとした表情に、季節感を味わうことの大切さを思う。
5月	<ul style="list-style-type: none"> ・浜町盆踊り保存会の方々による盆踊り大会 華やかな歌と踊りに、利用者様も感激していた。 ・5月1日～7日まで、菖蒲湯祭り 菖蒲の香りに季節感を堪能した。
6月	<ul style="list-style-type: none"> ・紫陽花鑑賞会 苑内庭に開花した紫陽花を鑑賞、皆で季節感を楽しんだ ・大正琴演奏会にて季節の歌を演奏してもらい皆で初夏を楽しんだ
7月	<ul style="list-style-type: none"> ・七夕さま 利用者・職員ともに短冊づくりを楽しむ。コロナ収束を祈り、短冊を笹の葉に飾り付けし、涼やかに七夕さまを送った。 ・スイカ割り大会 デイ・特養合同のスイカ割りは、夏の風物詩として恒例となった。大会後のスイカのおやつは格別である。
8月	<ul style="list-style-type: none"> ・盆踊り大会 地域ボランティアの協力のもと、盆踊り大会を開催した。
9月	<ul style="list-style-type: none"> ・敬老の日 利用者、職員と敬老の日をお祝いした。久寿玉を長寿の利用者に割ってもらい、健康寿命の大切さを皆で話し合うひと時を設けた。
10月	<ul style="list-style-type: none"> ・運動不足解消のため、運動会を開催 ボールゲームに盛り上がった。
11月	<ul style="list-style-type: none"> ・紅葉狩りは紅葉した葉を使って、工作を楽しんだ。 ・アロマテラピー
12月	<ul style="list-style-type: none"> ・クリスマスコンサート 職員によるハンドベル演奏が大変好評だった。 ・恒例の築地ライオンズによるクリスマス会。歌手による歌のプレゼントは利用者の心をなごませてくれた。
1月	<ul style="list-style-type: none"> ・新年会 利用者、職員との新年会は、すごろく、福笑い等、伝統的な正月遊びに興じた。 ・ビンゴ大会を開催 景品のお年玉袋を抱えた利用者の笑顔がイキイキと映えた。
2月	<ul style="list-style-type: none"> ・2月3日の節分は、職員が鬼になって利用者のフロアを駆け巡った。 ・運動不足を防止するため、運動レクを増やしていく。
3月	<ul style="list-style-type: none"> ・家族会については、再開を検討中 ・お花見は、近くを施設車で回って桜の開花を見学

③ 送迎について

階段昇降機(スカラモービル・J-マックス)を活用することにより、エレベーターのない団地等の集合住宅に住む利用者のデイサービス利用を可能にすることができました。階段昇降機の支援を必要とする利用者は徐々に増え続け、毎日2名～4名の利用者の昇降を行っています。

送迎においては、中央区他、江東区、港区、千代田区、墨田区まで実施しており、

99.1の送迎率となっています。

④ 入浴について

デイサービス利用理由の大きなひとつとして入浴があります。その期待に応えるため希望者には基本的には毎回入浴を提供しており、入浴利用率は87.1%です。

身体状況に応じた入浴形態で対応しています。皮膚の異常、バイタルの変動等、入浴時に気づくことが多く、看護師が2名体制で対応しています。

⑤ 機能訓練

理学療法士による個別機能訓練を実施しています。リハビリテーション病院を退院後に通われている利用者も多く、身心機能の維持に努めています。歩行アシスト、免荷式歩行器ポポ、ウォークトレーニングロボといったリハビリ・ロボットを活用しながらの訓練は、利用者のモチベーションも向上し、リハビリ効果を見せています。

4. 特養・デイサービス合同

(1) 各種委員会

各種委員会は役割と人員を常に見直し

- ① 年中行事委員会
- ② 栄養委員会
- ③ 身体拘束廃止委員会
- ④ 排泄・褥瘡委員会
- ⑤ ケアプラン委員会
- ⑥ 感染症対策委員会
- ⑦ 事故防止対策委員会
- ⑧ 防災対策委員会
- ⑨ リハビリ委員会
- ⑩ 環境・口腔ケア委員会
- ⑪ 安全・衛生委員会(介護職のための)
- ⑫ ロボット委員会

(2) 行事

四季折々の各種行事は、3階フロアを利用して、特別養護老人ホーム・短期入所・通所介護利用者合同で実施する形をとり、年間を通して各種行事に取り組みました。

(3) 防災訓練

防災管理者及び京橋消防団には、現在1名の職員が入団しています。新富町会の防災訓練に参加するなど、防災への知識・技術の向上に務めました。新規に採用された職員には、消防機器訓練を随時実施しています。さらに、京橋消防署への研修参加の他、地域等の協力を得て、毎月1回「震災・消防訓練」を実施しています。

(4) 職員研修

- ・ 4月～3月：毎月1回 本年度もオンライン研修を実施しました。

ZOOMを使うことで、法人全施設とつながることが可能となり、同時刻に一斉に研

修を受けることができるようになったことは、コロナ禍での大きな収穫です。

- ・ネット配信サービスを活用した「eラーニング研修」を導入。職員が自分のペースに合わせて、希望するプログラムをいつでも受講することができるというメリットがあります。

表7 資格取得等に向けた職員研修(令和5年4月～令和6年3月)

研修名	特養	通所	訪問
初任者研修	0人	0人	0人
実務者研修	0人	1人	0人
介護福祉士資格取得研修	0人	0人	0人
在宅療養研修	1人	1人	1人
権利擁護：虐待防止研修	1人	1人	0人
口腔ケア研修会	1人	1人	1人

表8 社内研修

No.	名称	開催日	参加人数	実績
	オンライン研修 18:00～19:00	令和5年4月初～ 令和6年3月末	特養 デイ	講師：勝野顧問 常勤・非常勤対象
3-1	高齢者の権利擁護について	4/10	17名	特養2名・デイ3名・訪問2名 栄養士1名・理学療法士3名 事務2名 相談員1名 施設長 1名 ケアマネ1名
3-2	事故防止への取組みについて	5/8	18名	特養3名・デイ3名・訪問2名 栄養士1名・理学療法士3名 事務3名 相談員2名 施設長1 名
3-3	感染症対策について	6/12	20名	特養4名・デイ7名・訪問2名 栄養士1名・理学療法士2名 事務2名 ケアマネ1名 施設 長1名
3-4	脱水・熱中症・水分補給について	7/10	20名	特養3名・デイ5名・訪問2名 栄養士1名・理学療法士2名・相 談員1名・事務2名・施設長1 名 看護師2名
3-5	特別養護老人ホームにおける看取りケアについて	8/14	21名	特養4名・デイ4名・訪問3名 栄養士1名・理学療法士3名・相 談員1名・看護師2名・事務2

				名・施設長 1 名
3-6	特別養護老人ホームにおける褥瘡ケアについて	9/11	19 名	特養 4 名・デイ 3 名・訪問 2 名 栄養士 1 名・理学療法 2 名・ケアマネ 1 名・相談員 2 名・事務 2 名・施設長 1 名・看護師 1 名
3-7	新型コロナウイルス等の感染症対策について	10/9	20 名	特養 4 名・デイ 5 名・栄養士 1 名 理学療法士 2 名・ケアマネ 1 名 相談員 2 名・事務 2 名・施設長 1 名・看護師 2 名
3-8	高齢者虐待防止に向けた取組み	11/13	19 名	特養 4 名・デイ 4 名・栄養士 1 名 理学療法士 2 名・ケアマネ 1 名 相談員 2 名・事務 2 名・施設長 1 名・訪問 2 名
3-9	リスクマネジメントについて	12/11	16 名	特養 3 名・デイ 2 名・栄養士 1 名 理学療法士 2 名・ケアマネ 1 名 相談員 2 名・事務 2 名・施設長 1 名・訪問 2 名
3-10	認知症高齢者への理解	1/8	19 名	特養 3 名・デイ 5 名・栄養士 1 名 ケアマネ 1 名・相談員 2 名・ 事務 2 名・施設長 1 名・訪問 2 名 看護師 2 名
3-11	感染症対策について	2/12	20 名	特養 4 名・デイ 6 名・栄養士 1 名 ケアマネ 1 名・相談員 2 名・ 事務 2 名・施設長 1 名・訪問 2 名 理学療法士 1 名
3-12	看取りについて	3/11	16 名	特養 4 名・デイ 4 名・栄養士 1 名 ケアマネ 1 名・事務 2 名・施設長 1 名 訪問 2 名・理学療法士 1 名
3-13	新人研修 認知症高齢者への理解とケア 事故防止への取組み 身体拘束廃止・虐待防止への取組み	4/1・6/3・7/31 10/7・1/13 2/9	6 名	特養 4 名 デイ 2 名

(6) ボランティア・実習生の受け入れ

地域交流、デイサービスの日課活動の潤活化および初任者研修の実習の場として受

け入れをしています。

定期的なボランティアとして朗読ボランティア、書道ボランティア、傾聴ボランティア等が年 12 回。その他、デイでは地域の方や、外国の方を含めたボランティア団体が利用者の話し相手、フロアの手伝いボランティアとして定期的に訪問してくれていましたが、コロナ禍となり外部ボランティアも制限することになりました。本年度は段階的に再開し、感染防止対策を取りつつ、コロナ禍前に近づけている状況です。

本年度は実習生の受入れ 10 名、職場体験 3 名、インターンシップ 13 名の受入れがありました。

実習生、インターンシップ、ボランティアとの交流は、日頃触れることの少ない若年層との世代間交流として、利用者一人ひとりに良質な刺激をもたらせる効果があるため、積極的に受け入れていきます。

表 9 令和 5 年度・実習生等の受け入れ

項 目	人 数 (延)
介護福祉士取得	0 人
教員免許取得希望者介護体験	10 人
職場体験	3 人
インターンシップ	13 人
小・中学生ボランティア実習	0 人
イナッコ教室ボランティア	3 人
春休み福祉体験合宿	0 人

(7) 技能実習生の受け入れ

本年度は、技能実習生の受入れはありません。

(8) 本年度の取組みについて

◆特養・デイ合同

期 間：令和 5 年 4 月～令和 6 年 3 月末

4 月 3 日	アスクル	見学取材
4 月 4 日	フランス T F 1	見学取材
4 月 5 日	TV スロベニア	見学取材
4 月 7 日	ドイツ E P A 通信	見学取材
4 月 24 日	東亜日報	見学取材
4 月 27 日	ちいさがた福祉会	見学取材
5 月 12 日	上海介護施設	見学取材

5月15日	スティーブ・バークレー	見学取材
5月25日	カナダ医師団	見学取材
6月22日	本田技術研究所	見学取材
7月3日	ロンドン・タイムズ	見学取材
8月2日	厚生労働省国際局	見学取材
8月7日	日本経済新聞	見学取材
9月7日	武漢介護施設	見学取材
9月8日	江蘇省の行政	見学取材
9月15日	上海介護施設	見学取材
9月25日	中国日本友好協会	見学取材
9月26日	香港文化村社	見学取材
9月26日	上海医療施設	見学取材
9月28日	台湾 美和科技大学	見学取材
9月29日	中央区介護保険課	見学取材
10月5日	オランダ大使館、Berenschot社 2名	見学取材
10月13日	スペイン ガリシア・ヘルス・クラスター	見学取材
12月28日	上海医療法人	見学取材
1月8日	デイリーエクスプレス	見学取材
1月9日	聖路加国際大学	見学取材
2月10日	韓国大学院生 Choi Songwon さん	見学取材
2月16日	梓設計 金井美子ゼイネプさん	見学取材
2月19日	古川尚史さんがお連れしたベトナム介護関係者	見学取材
2月21日	社会事業大学	見学取材
2月29日	梨花女子大学	見学取材
3月27日	静岡県日中友好協議会の招待により医療関係者 25名	見学取材
10月16日	お茶の水女子大学 生活科学部	卒論取材
11月10日	一橋大学社会学部	卒論取材
12月27日	早稲田大学人間科学部	卒論取材
2月27日	社会事業大学	研究取材
10月30日	第3回 デジタルシンポジウム in 東京 '23 秋	発表
8月10日	05-A02 画像認識による転倒検知システム 株式会社シーエーシー	テクノエイド協会
11月16日	05-A02 画像認識による転倒検知システム 株式会社シーエーシー	テクノエイド協会

12月25日	05-A06 センシング歩行車ユニット 株式会社星光医療器製作所	テクノエイド協会
1月25日	05-A06 センシング歩行車ユニット 株式会社星光医療器製作所	テクノエイド協会
8月28日	05-B02 座り見守りセンサー フランスベッド(株)	テクノエイド協会
10月4日	05-B02 座り見守りセンサー フランスベッド(株)	テクノエイド協会
12月13日	【ロボット認証】2次審査 システムファイブ株式会社 介護施設向け 見守りシステム『すいすいケア』	かながわ福祉サービス振興会
12月18日	【ロボット認証】2次審査 株式会社 Z-Works 「見守り支援システム ライブコネクト」	かながわ福祉サービス振興会
7月6日	安診ネット導入説明会	芙蓉開発
7月25日	安診ネットバイタル 測定トレーニング	芙蓉開発
9月13日	安診ネット 介護職向け説明会	芙蓉開発
1月11日	安診ネット 導入促進説明会	芙蓉開発
10月9日	aba ホームページ Helppad 掲載インタビュー	aba
12月19日	Helppad2 Mock-up での概要説明会	aba
3月12日	Helppad2 販促サンプルでの実動作説明会	aba

◆デイサービス

認知症予防プログラムへの取り組み

- ・ゴーヤカーテンづくり
- ・ベランダ菜園

本年度も昨年に引き続き利用者様へのプログラムの一環として、認知症予防プログラム：ゴーヤカーテンづくり、ベランダ菜園に取り組みました。

種を蒔くことから始め、発芽し、蔓が伸び、つぼみをつけ、花と開花していく様は利用者を活気づける良質なプログラムです。

本年度は、猛暑による影響から成長途中で干からびてしまった実も多く、今後は暑さ対策を検討していきます。



収穫に喜ぶ利用者の皆さま

(9) 地域公益活動

① 東京子育て応援事業

平成 28 年 6 月～平成 30 年 3 月末の 2 ヶ年にかけて、東京都の助成事業「東京子育て応援事業」に取り組んできましたが、助成期間を過ぎた後も継続して運営してきました。

平成 30 年 4 月からは、法人の独自事業として「子ども英会話教室」を開催し「子どもそろばん教室」「子ども食堂」と併せて、地域の子どもの安心・安全な居場所づくりとして役割を果たしていきます。

令和 3 年度以降は、法人独自の事業として取り組んできました。感染状況に応じて、開催・中断を繰り返してきましたが、子どもたちはいつでも「自分たちの居場所」として集まっています。

【実施状況】 令和 4 年 4 月～令和 5 年 3 月末

※コロナ感染拡大防止のため引き続き、子ども食堂は中止

○新とみ	子どもそろばん教室	11 回開催
○新とみ	子ども英会話教室	11 回開催
●土支田	子どもそろばん教室	10 回開催
◎戸山	子ども英会話教室	7 回開催

【実施状況】 令和5年4月～令和6年3月末

※子ども食堂は令和5年4月の英会話教室・そろばん教室より再開しました。

○新とみ 子どもそろばん教室	12 回開催	延べ生徒人数	160 名
		延べボランティア人数	38 名
○新とみ 子ども英会話教室	12 回開催	延べ生徒人数	86 名
●土支田 子どもそろばん教室	10 回開催		
◎戸山 子ども英会話教室	12 回開催		

令和5年度からは、「新たな生活様式」のもと、教室は月2回開催、あわせて「子ども食堂」も再開いたしました。新とみでは英会話教室は、延べ生徒人数160名、社会人ボランティアは延べ38名の方にご協力を頂いております。またそろばん教室では、延べ86名の生徒に参加頂いております。子どもたちも新たな日常を取り戻しつつあります。

子ども英会話教室・そろばん・みんなで食事

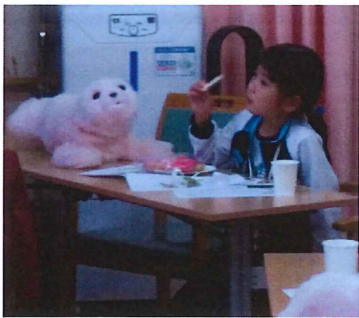
開智日本橋学園・上智大学留学生のボランティアの皆さんと

平成30年4月～令和2年3月末





令和3年～令和5年3月末
コロナ禍の中でマスク着用で実施



令和5年4月から令和6年3月
新たな日常へ



特養利用者様も参加され、ボランティアとの英会話 懐かしい話が英会話で途切れません。

5. 訪問ヘルパーステーション

(1)はじめに

平成28年3月1日、新とみ併設として「ウイング訪問ケアステーション」を開設しました。本年度も新規利用者の開拓に力を入れましたが、移動時間の効率性・ヘルパーの負担軽減・業務効率を考え、近隣でのサービス開拓に注力いたしました。

1. サービス提供時間 8時30分～18時(時間外については応相談)
2. 実施地域 中央区・港区・千代田区・江東区
3. サービス内容 身 体：排泄介助、オムツ交換、食事介助、口腔ケア等
生活援助：掃除、買い物、デイサービスの送迎支援等
4. 本年度利用者実人数 436人 昨年度 397人
5. 新規利用者数 28人 昨年度 19人

表 10 要介護度別利用者状況

要介護度	4年度利用人数	4年度延人数	5年度利用人数	5年度延人数
要支援 1	36人	172人	60人	341人
要支援 2	65人	350人	101人	635人
要介護 1	94人	697人	111人	1,072人
要介護 2	67人	685人	42人	341人
要介護 3	119人	1,832人	103人	1,131人
要介護 4	4人	22人	18人	338人
要介護 5	12人	76人	1人	8人

① 利用者の状況

表 10 にあるように、要支援から要介護 5 の利用者まで、生活、身体介助と幅広いニーズがあります。要支援の利用者には、利用者の自立支援を促す援助を行うことが重要であり、質の高い援助技術が求められます。

在宅においては、介護度の高い利用者が訪問介護サービスを利用しながら在宅生活を維持しており、利用者はもとより、家族の生活を支える上でも訪問介護は重要な役割を果たしています。

今後、訪問看護、訪問診療等様々なサービス提供事業者との連携が不可欠であり、情報共有を図りながら、清潔かつ安心・安全な在宅生活の維持に努めます。

本年度は、新型コロナウイルスの影響は見られず、正常な状況に戻っています。

② 地域・在宅の課題

- ・在宅における、劣悪な療養環境の問題
- ・認知症状の進行におけるもの盗られ妄想による金銭トラブル
- ・近隣住民とのトラブル
- ・家族の介護ストレスによる心疾患

これら地域・在宅における課題は、訪問ヘルパーが関わるケースも多々あり、研修を始めとした教育は必須であり、質の高いサービス提供が急がされます。

(別表1)

< 年度末平均年齢 >

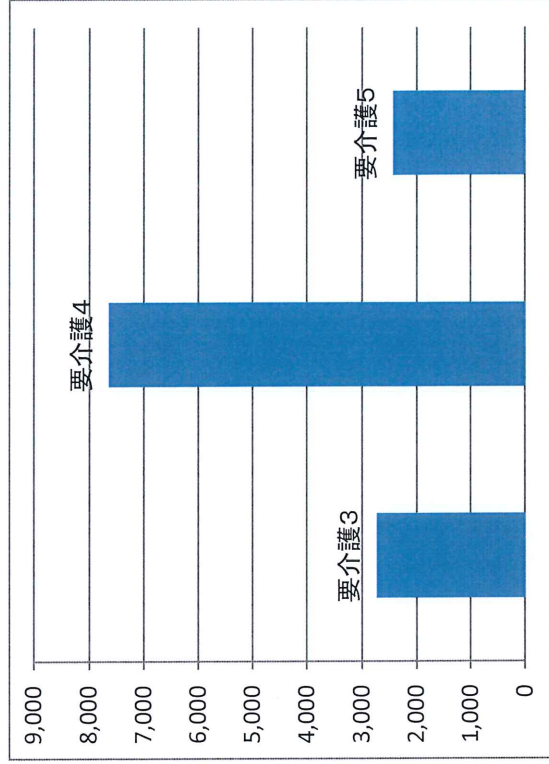
性別	人数	平均年齢	年齢分布
男	12名	84.6	60～100
女	25名	86.4	74～97
(全体)	37名	85.8	60～100

(別表2)

< 月別利用者の状況 >

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
要介護3	175	210	210	217	217	240	248	240	248	248	232	248	2,733
要介護4	600	594	562	628	662	621	651	668	672	707	626	651	7,642
要介護5	266	238	238	185	163	144	155	150	193	217	232	254	2,435
計	1,041	1,042	1,010	1,030	1,042	1,005	1,054	1,058	1,113	1,172	1,090	1,153	12,810
要介護平均	4.09	4.03	4.03	3.97	3.95	3.90	3.91	3.91	3.95	3.97	4.00	4.01	3.98
実人員	36	35	35	37	36	37	35	36	37	39	38	38	439
述べ定員数	1,200	1,240	1,200	1,240	1,240	1,200	1,240	1,200	1,240	1,240	1,160	1,240	14,640
1日平均利用者数(人)	34.7	33.6	33.7	33.2	33.6	33.5	34.0	35.3	35.9	37.8	37.6	37.2	35.0
稼働率	86.75%	84.03%	84.17%	83.06%	84.03%	83.75%	85.00%	88.17%	89.76%	94.52%	93.97%	92.98%	87.50%

(別表3)



(別表4)

< 年度末平均年齢 >

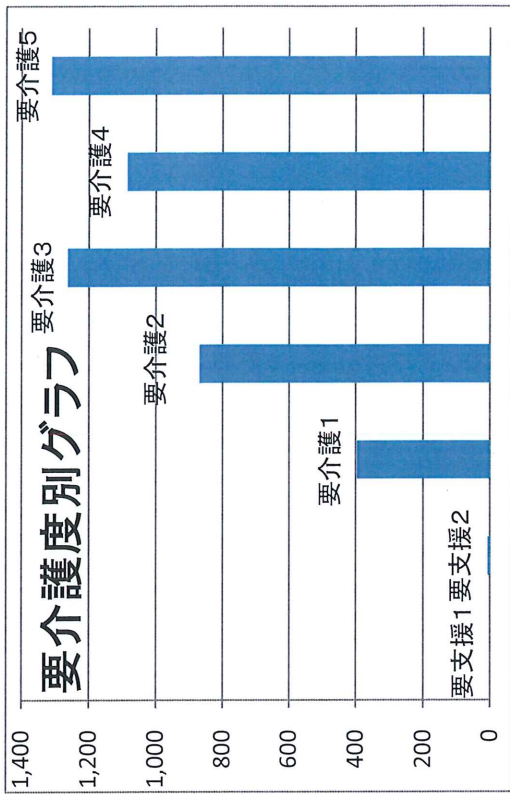
性別	人数	平均年齢	年齢分布
男	7名	83.6	70～89
女	33名	85.2	54～97
(全体)	40名	85.0	54～97

(別表5)

< 月別利用者の状況 >

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
要支援1													0
要支援2						6							6
要介護1	28	58	34	41	58	51	38	17	21	24	12	15	397
要介護2	47	76	60	119	120	91	76	82	75	37	35	52	870
要介護3	68	107	112	136	83	92	113	90	101	92	120	150	1,264
要介護4	130	121	107	48	99	109	102	109	70	80	58	53	1,086
要介護5	126	103	131	151	102	118	103	110	97	105	80	86	1,312
計	399	465	444	495	468	461	432	408	364	338	305	356	4,935
要介護平均	3.70	3.29	3.54	3.30	3.12	3.33	3.36	3.52	3.40	3.61	3.52	3.40	3.41
実人員	43	52	52	52	54	53	44	50	45	49	39	40	573
延べ定員数	180	186	180	186	186	180	186	180	186	186	174	186	2,196
1日平均利用者数(人)	13.3	15.0	14.8	16.0	15.1	15.4	13.9	13.6	11.7	10.9	10.5	11.5	13.5
稼働率	221.67%	250.00%	246.67%	266.13%	251.61%	256.11%	232.26%	226.67%	195.70%	181.72%	175.29%	191.40%	224.73%

(別表6)



(別表7)

< 年度末平均年齢 >

性別	人数	平均年齢	年齢分布
男	33名	81.6	54～96
女	66名	84.3	54～100
(全体)	99名	83.4	54～100

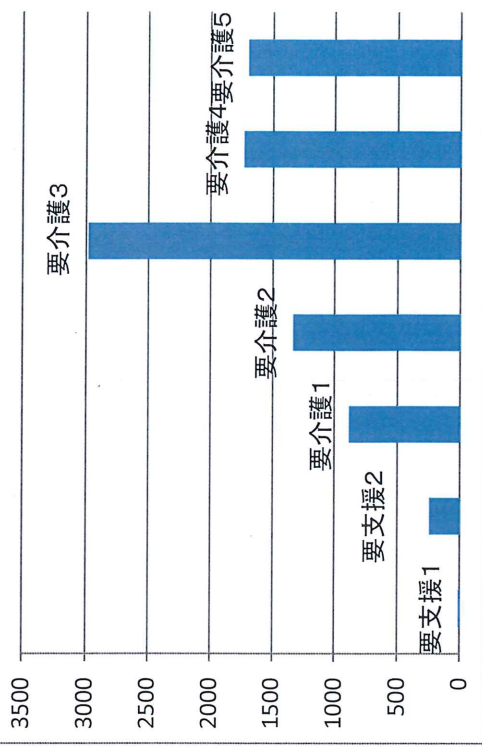
(別表8)

< 月別利用者の状況 >

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
要支援1										2	4	4	10
要支援2	9	10	18	10	16	25	19	26	26	29	29	29	246
要介護1	87	90	92	95	86	58	64	56	57	62	68	74	889
要介護2	114	111	97	125	126	138	115	107	101	104	95	101	1,334
要介護3	217	238	235	246	247	224	236	244	264	263	286	284	2,984
要介護4	162	183	134	131	158	141	141	123	134	133	144	150	1,734
要介護5	86	103	122	120	142	151	162	164	174	184	141	151	1,700
計	675	735	698	727	775	737	737	720	756	777	767	793	8,897
要介護平均 実人員	3.04	3.11	3.09	3.05	3.14	3.19	3.25	3.25	3.28	3.27	3.16	3.17	3.17
述べ定員数	1,020	1,054	1,020	1,054	1,054	1,020	1,054	1,020	1,054	1,054	986	1,054	12,444
1日平均利用者数(人)	22.5	23.7	23.3	23.5	25.0	24.6	23.8	24.0	24.4	25.1	26.4	25.6	24.4
稼働率	66.18%	69.73%	68.43%	68.98%	73.53%	72.25%	69.92%	70.59%	71.73%	73.72%	77.79%	75.24%	71.50%

(別表9)

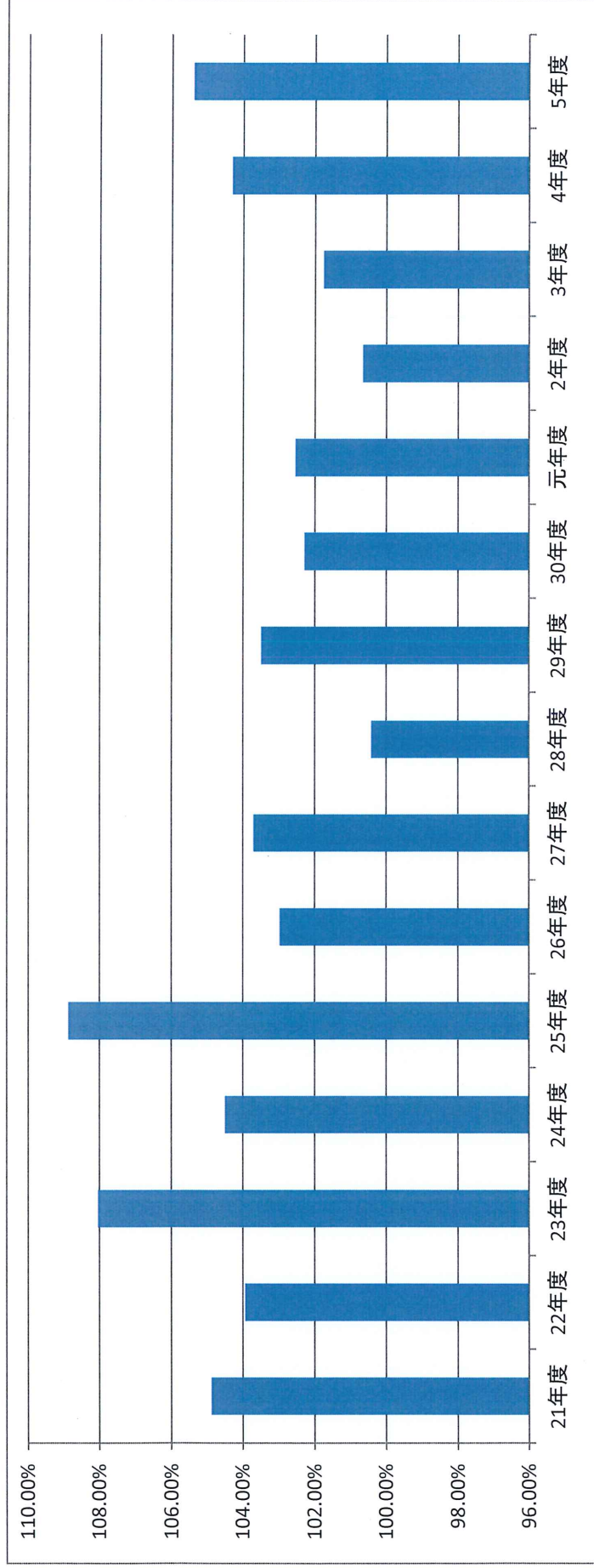
要介護度別グラフ



(別表10) <月別稼働率>

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
特養	1,041	1,042	1,010	1,030	1,042	1,005	1,054	1,058	1,113	1,172	1,090	1,153	12,810
・ショートステイ	399	465	444	495	468	461	432	408	364	338	305	356	4,935
計	1,440	1,507	1,454	1,525	1,510	1,466	1,486	1,466	1,477	1,510	1,395	1,509	17,745
延べ定員数	1,380	1,426	1,380	1,426	1,426	1,380	1,426	1,380	1,426	1,426	1,334	1,426	16,836
稼働率	104.35%	105.68%	105.36%	106.94%	105.89%	106.23%	104.21%	106.23%	103.58%	105.89%	104.57%	105.82%	105.40%

(別表11)



稼働率

21年度	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度
104.88%	103.93%	108.05%	104.50%	108.88%	102.96%	103.69%	100.42%	103.48%	102.29%	102.54%	100.67%	101.77%	104.31%	105.40%